

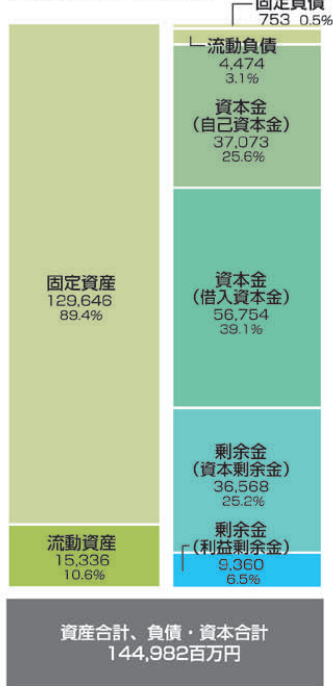


平成18年度 新潟市水道事業決算について

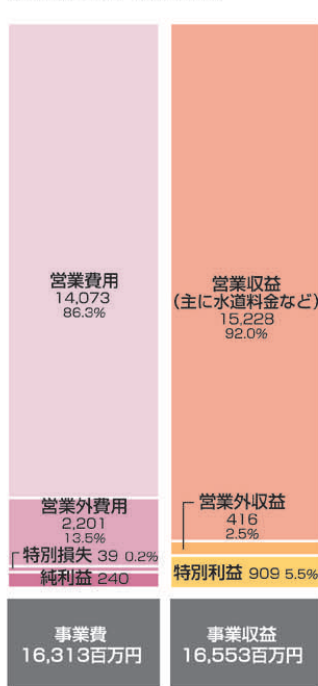
平成18年度決算では、事業収益16,553百万円に対し、事業費は16,313百万円となり、純利益240百万円を計上しました。しかしながら、経常収支*は前年度に稼働した信濃川浄水場の減価償却の開始、ならびに用地売却にあたり実施した鳥屋野浄水場施設撤去工事等により赤字となりました。純利益は減価償却費等とあわせて水道施設の整備や借入金返済の財源に充てます。

*経常収支とは、営業収益と営業外収益から営業費用と営業外費用を差し引いたものをいいます。

貸借対照表 [単位:百万円]



損益計算書 [単位:百万円]



事業の概要

○新潟市水道事業中長期経営計画(マスタープラン)の策定

今後の新潟市水道事業の運営を計画的に進めるために、平成19年度から26年度を計画期間として「新潟市水道事業中長期経営計画(マスタープラン)」を策定しました。

○経営の効率化・合理化

浄水場運転監視委託業務において、統括監視方式の導入による管理の集約及び民間委託対象施設の拡大を行い、効率化・合理化を推進しました。

○浄水・配水施設の整備

満願寺浄水場の自家発電設備など主要施設の整備を実施し、また、お客さまの水道水質への関心が高まる中、水質検査機器、水質計測設備及び活性炭注入設備を整備し浄水処理の高水準化を進めました。

○配水管の整備

浄水施設の統合・再編計画に基づき、統廃合を予定する長戸呂、亀田及び小須戸各浄水場の配水区域への連絡配水管5,905mを新設するとともに、破損率が高く漏水の原因となる石綿セメント管1万8,962m及び経年錆鉄管4,320mを更新しました。このほか新規給水及び水圧確保のための整備を含め、配水管工事全体では7万3,295mを布設して配水管網の充実・強化に努めました。

近年の水需要が伸び悩む傾向の中で、施設の老朽化への対応が迫られるなど、多くの課題を抱えておりますが、マスタープランに掲げる基本理念「お客さまに信頼される水道」を実現するために、経営の効率化と事業基盤の強化を着実に推し進め、安全でおいしい水の安定供給に努めてまいります。

キャッシュ・フロー計算書(間接法による) [単位:百万円]

項目	17年度	18年度
現金預金及び現金同等物期首残高	16,781	13,401
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,494	5,508
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲9,026	▲4,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲848	▲1,311
現金預金及び現金同等物期末残高	13,401	12,808

キャッシュ・フロー計算書ってなに?

A その年度における現金(キャッシュ)の増減を、営業活動、投資活動及び財務活動に分類して表示するものです。

会計に関する情報をより広く、より詳しく提供するために、水道局では平成17年度決算から、従来の貸借対照表、損益計算書に加え、新たにキャッシュ・フロー計算書を作成し公表しています。

お問い合わせは水道局財務課へ

水道局へのお問い合わせやお届けは お客さま専用フリーダイヤル

0120-411-002

(通話料無料)

フリーダイヤルに
つながらない場合は
025-266-9311(代表)へ



有料広告を募集します!!

2ヶ月に1度、水道メーターを検針した際に各家庭へ配付している「水道使用量等のお知らせ」の裏面を、企業を対象とした有料の広告スペースとして提供します。

- 掲載期間：平成20年4月から1年間
- 締め切り：平成19年12月14日(金)
- 広告スペース：タテ210mm×ヨコ75mm
- 配付範囲：新潟市内で水道をご使用されている世帯約33万世帯(一部のアパートやマンション等は除きます)

お申し込み、お問い合わせは
水道局業務課 TEL: 025-232-7326

この裏面に広告が入ります⇒

項目	17年度	18年度
現金預金及び現金同等物期首残高	16,781	13,401
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,494	5,508
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲9,026	▲4,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲848	▲1,311
現金預金及び現金同等物期末残高	13,401	12,808